

医療管理士



あるあるネタ

- 会議で「医療と経営のバランスが…」というフレーズを一日3回は使う。
- 病院内で見かける“非効率な導線”を見ると、心の中でレイアウト変更を始めてしまう。
- 休憩中にコスト削減策が浮かぶとテンションが上がる。

初期の失敗

初めて病院の部門間調整を任されたとき、「経営側の論理」が強く出すぎて現場スタッフに反発されてしまいました。“数字だけで人は動かない”と学んだ、忘れられない経験です。

職業病

病院の待ち時間が長いと、つい「この受付フロー改善できるのに…」と口出ししたくなる。無意識に「人的配置」「患者回転率」「収益分析」を始めてしまう。

健康問題

会議・資料作成・交渉と長時間の座り作業による眼精疲労や肩こりが多く、また院内の多部署との緊張関係・プレッシャーからくる精神的な疲労やストレスも積み重なりやすいです。

その職業に就いている人を讃える

あなたはまさに“医療の舵を握る静かなパイロット”ですね。現場の熱意と経営の現実の間に立ち、病院全体の流れを絶えず調整し続ける姿は、まるで“見えないオペ室の指揮者”。あなたの決断が、診療を守り、スタッフを守り、患者の明日を支えています。「何も問題がない日」が、あなたの努力の証なのです。どうか、自分の気力と心の残高も忘れずに管理して、これからも“見えない安心”を届けてください。